

令和元年度草津市文化振興審議会

重点プロジェクト検討部会 会議録

▼日時：

令和元年 6 月 7 日（金） 14：00-16：00

▼場所：

草津市役所 6 階 教育委員会室

▼出席委員：

木下委員、我孫子委員、澤委員、田端委員、津屋委員、綾委員

▼欠席委員：

石田委員

▼事務局：

居川部長、山本副部長、相井課長、山本課長補佐、松岡主査

▼傍聴者：

0 名

1. 開会

【教育部長】

今年度の本部会では、昨年度皆様に研究いただきました 13 万人の文化プロジェクトの本格的な展開に向けた準備と、今年度から新たに次世代文化体験プロジェクトの研究を行っていただきます。

さる 5 月 29 日に、草津市立矢倉小学校におきまして、全校児童を対象に、文化ホールの指定管理者である（公財）草津市コミュニティ事業団に、オリジナルオペレッタのアウトリーチを行っていただきました。草津市の花であるアオバナを題材とした自主製作の音楽物語で、全校生徒約 600 名が一流の文化を鑑賞されました。家庭環境などに関わらず、すべての子どもが文化に触れる機会を創出する素晴らしい取り組みだと感じています。また、今年度よりイオンモール草津との連携事業が始まっており、毎月、イオンモール草津で市内を中心に活躍するアーティストが草津の歴史文化の特徴をテーマにしたワークショップを実施しており、市民とアーティストが交流する機会を提供しています。今後は、官民が一体となったオール草津で、次代を担う子どもたちを対象とした文化事業を広げていきたいと考えております。

また、昨年度御議論いただきました 13 万人の文化プロジェクトについては、プレ事業と

して、若干ですが予算を確保しており、来年度の本格実施に向け、本日の部会では、皆さんの専門的な知見により、充実した取り組みとなるよう御意見を頂戴したいと考えております。

2. 今年度の重点プロジェクト検討部会の概要

【事務局】

<資料に基づき説明>

【A委員】

ただ今の説明について質問はないか。

【各委員】

特に質問無し

3. 次世代文化体験プロジェクトの研究

【事務局】

<資料に基づき説明>

【A委員】

大きく2つ提案があり、1つは広報活動の充実。もう1つは昨年度実施したアートフェスタくさつの連携事業について検討できないかという提案であった。

【C委員】

情報発信事業について、教育委員会が後援した事業を市役所内で連携して発信するということか。

【事務局】

当課で審査し発信する。

【C委員】

選別するのが生涯学習課か。

【事務局】

生涯学習課が後援の窓口になるものについて、申請の受付および審査から後援の許可、広報のサポートまで一貫して当課が行う。

【C委員】

後援事業実施の際にアンケートを取ってもらい、サポートした広報活動の効果測定を行

うというイメージか。

【事務局】

それも一つの手法かと思う。

【C委員】

他にも狙いがあるということか。

【事務局】

民間が実施される事業について情報発信をサポートするというのが目的であり、効果測定については別途検討できればと思う。

【A委員】

今までは90事業あるうちの20事業を取り上げてサポートしていたという意味か。

【事務局】

これまで後援は名義貸しであり、積極的なサポートが出来ていなかったもので、我々として何かできることがないかと考え、一步踏み込んだ広報サポートを提案させていただいた。

当課において年間で後援しているのが90事業程度あり、仮に今回の事業を進めるのであれば20事業はその対象になる。

【E委員】

文化ホールの利用者に対しては、ホールのホームページで情報発信するほか、広報活動のアドバイスをさせていただいている。

【F委員】

市役所のホームページでバナーが作られるとイベントを探しやすいと思う。

【事務局】

バナーをたくさん作成していたことがあるが、現在は随分と整理された。埋もれないようにしたい。

【A委員】

比較的实施しやすい事業である。重点プロジェクトであればもう一步踏みこんだアイデアが欲しい。民間がされている事業をピックアップしても多い数ではない。もっと積極的に埋もれているものを発掘するとか、近隣地域のものまで取り上げるなどできないか。

【D委員】

情報発信という提案だったが、重点プロジェクトはそういうイメージではない。文化政策というのは社会の課題を解決するためのものであり、これでは重点プロジェクトという位

置づけにはならない。もっと現場では積み上がっているものがあるのに、重点プロジェクトは情報発信ですとなると残念。もっと協議が深められることがあるのでは。

ここ最近、不登校の問題については、どうやって学校に戻すかではなく、社会の中で生きていける、頑張れるようにしていこうという流れになっている。そうした時に、アートは力を発揮できる素材。インクルーシブ的なものをやりたいという議論も過去していた中で、このメンバーでアールブリュットなどを通じて子どもたちが皮膚感覚で学ぶという事業が研究できれば斬新なものが出来上がる。

冒頭のあいさつにあったアウトリーチも、情報として伝わっていないので、こういう情報を映像で発信する。1校だけでなく2校3校と実施する。新たなソフト開発を行うなど考えられることがある。

現場の先生はとても高い意識を持っているので、パイロット的なものなら学校のカリキュラムとしてすぐ実施できる。学校というキーワードをもっと前面に出して欲しい。

【A委員】

事務局に只今の意見のようなことを取り上げずに、今回の提案をされた意図を聞きたい。

【事務局】

文化振興計画に基づき、新たに始まったり、拡大している事業がある。民間の事業でも出来ることは支援しようと思っているが、もっと人を集めるような協力をして欲しいといった意見もあったので、広報支援の提案をさせていただいた。

広報だけでは物足りないので、アートフェスタが子どもの文化体験事業として目玉になっており、新しい取り組みができないかということで、資料を追加させていただいている。

【事務局】

埋もれている情報を発信することは可能。笠縫東学区の隧道にある壁画が落書き防止に役立っているケースなど、丁寧に拾い集めていければ。また、草津は、クリスマスブーツ発祥の地で、友好交流都市の伊達市と飾りつけのコンテストで交流するなどアートを通じた交流が行っている実態もあるので、後援名義だけでなくそうした取り組みも発信したい。

【A委員】

通常業務でやれば良い。アートフェスタについては、昨年も開催しているので、重点なのかというところがある。

新機軸としての重点プロジェクトを検討しており、それぞれがいけないというわけではないが、重点としての位置づけとしては弱い。

【D委員】

草津がなぜよい街かと言われると教育がキーワードになる。ここで教育を受けさせたいという親がたくさんいる。いかなる子どもたちも平等にと考えたときに、学校というキーワードが出てこないのは残念。

【B委員】

情報発信事業について、他にしなければならないことがあるという意見もあるが、私は逆の意見。後援をいただいて、地域まちづくりセンターにポスターを貼りに行っても断わられるケースがある。一般の団体のポスターは貼れないと。後援とは実際それくらいのもので、県も同様。後援に力を入れてもらえるのは嬉しい。

ぽかぽかタウンアプリ版については、ダウンロード数が少ないが、知らない人も多いのではないか。ホームページにバナーを貼っても、草津市のホームページを見ない人には伝わらない。

若い人は、パソコンに触らない人もいるので、SNSを使ったりすることで気軽に情報が拾えれば。広報紙も堅苦しい。

【A委員】

情報を収集しやすい媒体のプロデュースができれば。

【B委員】

制約があるのか。教育委員会のアカウントなどは作れないのか。

【事務局】

難しいと思う。実行委員会形式でイベントを行う際に、実行委員会名義でアカウントをとることはある。

【A委員】

現代に合わせた情報の収集と発信。誰がやるのか。検討する必要がある。データとしてアーカイブ化されることも重要。

発信は利用しやすいメディアを選定して出来るだけ広く発信する。その仕組みを部会で検討する。

【F委員】

1歳児くらいまでの子に来るサークルを主宰しているが、ぽかぽかタウンは割と使われている。10年まえとは全然違う文化だ。ぽかぽかタウンに情報が入るのは重要。

【E委員】

ホールも利用している。以前は子どもを中心にPRしていたが、今は大人から子どもまでを対象にした事業もPRしている。アンケートを取るとぽかぽかタウンを見て来られているお客様が結構いる。

アートフェスタくさつについては、ホールとしてアーティストを派遣するというのを大事にしているので、何かできるかことがあるのではと思っている。

20年前はアーティストが教育現場に入るのが難しかった。今、少しずつ動き始めている中でその発信ができていないのは反省。矢倉小学校では子ども達が感動していた。どうやったら全学校に行けるか。心の劇場では市内の全小学6年生を招待している。一つずつクリア

していると思っている。

アートにどぼん！がやっていたことは、予算はそんなにつかないかもしれないが我々でもできることはある。

【A委員】

学校を対象に広げていくことに対して、事務局の方で課題に感じていることはあるか。

【事務局】

今、アウトリーチの話が出たが、逆にインリーチの話で言うと、心の劇場は、市内の全小学6年生を招待する。好評で多くの学校に来ていただいていたが、草津でも車がないと来れない学校があり、ホールからも相談を受けていたので、市の方で公用バスを運行し、ピストン輸送させていただいて14校中12校の参加をいただいた。

【E委員】

アウトリーチができるチーム、プログラム作りに力を入れていきたい。

【A委員】

広報活動も良いが、草津なりのアウトリーチプログラムを考えるのも良い。

【D委員】

現場の先生の声で養護学校と通常学級のマッチングを行ったことがある。インクルーシブアートプログラムを全国でも早い段階で実施し学びが深かった。通常学級の子は障害のある子の造形活動、純粹に取り組む姿に感動して影響を受けた。延長線上でアールブリュット作家との出会いをプロデュースできないか。研究であるから検討してもよいのでは。「いかなる環境にある人も平等に」は、草津らしさの言葉。小さくとも一歩前進できれば。

【C委員】

草津市がどう考えているか聞きたい。配布された資料を読み込むと、情報発信をサポートすることで、促進につながるか研究してほしいという思いがあったのかなと捉えた。積み上がってきているものに対して今の時代にマッチしたものを、というサジェスションに対して、事務局はどう考えているか。

【事務局】

計画策定以後、新規、拡大事業を進める中で子どもに対する文化事業はそこそこ充実してきていると感じている。ただし完全ではなく、これからやらないといけないこともある。今後ここを進めようと思うと草津市だけでなく、NPOや様々な機関を巻き込んで一緒に取り組んでいかないといけないと考えるとまずは仲間をつくらないといけない。民間が盛り上がるような仕組みを作っていきたい。そのあと一緒にできることがあれば。

情報発信を事務局案として挙げたが、それだけが研究のテーマになっているわけではなく、連携等の基盤整備の研究を行うとしている。

【A委員】

今、提案があった中で、差があるところに届けていくためのコーディネートができる仕組みがあればと感じた。草津アートサポートプラットフォームを考えてはいかがか。

【C委員】

誰をサポートするのか。

【A委員】

次世代の人たちにアートを届ける。情報提供を行う。人をつなぐサポートを行うプラットフォーム。草津なりの仕組みを考えられれば。

【事務局】

指定管理者の提案として、文化・芸術のコーディネート機能である「アートセンター」を設置いただいている。ホールの外に出ていくのは、今後の取り組みになる。

【D委員】

行政ができることと、文化ホールができること、このネットワークを強固にする。劇場の中の機能をどうしていくか。活動している方が元気になるように。

専門機関との連携を深められないか。市民活動と専門機関との連携は、分けて考えていくべき。専門機関と連携すれば、素晴らしいプログラムのソフト開発もできる。

びわ湖ホールでは、声楽アンサンブルのOBの方の活躍の機会を求められている。イオンモールとの連携も面白いと思ったし、グローのような先駆的な組織との連携も面白い。

専門機関との連携と市民参画のところを分ける必要がある。

【事務局】

学校アート化計画を進める中で、小学校は多忙で、先生が積極的に関わることが難しかったが、幼稚園、子ども園は前向きに協力いただけた。学校を進めるのが良いのか、幼稚園に注力するのが良いのか。学校に入るのが簡単ではない。

【D委員】

実際は要望を凄くいただいている。学校が求めているのものをマッチングできているか。学校は、本物の芸術体験に熱心。学校が受け入れられるようなプログラム作りができると面白い。完成度が高く教科単元に入るものはずっと根付く。インクルーシブ的なことも文部科学省に言われている。

【E委員】

アートセンターはほぼ全ての学校に関わっている。スタッフの問題で、頼まれても広げられていない現状がある。

【A委員】

去年から話している部局間連携が課題。これが進めば、草津は素晴らしい実績を持つ街と言われるようになる。

去年、アートにどぼん！を見られていないが、具体的なイメージはあるか。

【事務局】

参加者も一緒にできるようなコンサートをお寺でするなど。アートフェスタくさつは一方通行のものを提供しているのではなく、体験型で考えているので、参加者と出演者が交流し新たな出会いが生まれるプログラムを検討している。関心を持っている団体もある。

【A委員】

実行委員会は立ち上がっているか。エリアの担当は決まっているか。

【事務局】

今後、実行委員会の場で議論できればと思っている。

【B委員】

アートフェスタくさつは、数年前まで文化団体の発表の場であった。ターゲットを子どもにして無料と書けば人が集まるという実行委員の意見があって次世代の体験型事業にした。市民活動をしている人が子どもたちに何ができるか。意識が変わってきている。

それまでは全幼稚園、保育園、小学校にチラシを配布しても集客につながらなかった。実際、お寺のエリアまで範囲を広げられるか、まだ検討している最中。

【A委員】

これまでの経緯や、会場の特性などもあるので丁寧に精査できれば面白いことが研究できるのでは。若手の組織、大学生を主体に広げられないか。

【F委員】

若い人は集まって組織を作っているのか。

【D委員】

ネットワークは持っている。

【F委員】

ネットワークはあるけど、組織には参加しない。

【F委員】

雨天でも必ず開催するという方が、参加者も準備しやすい。もっとゾーンを集中させた方が良いのでは。草津小学校や草津中学校に協力いただけないか。

【事務局】

この時期、小学校や中学校のグラウンドは運動会などの予定が入っており、借りるのが難しい。日程も定着してきているので変えれない。

星降る映画館は夜に開催するので、この時期よりも後ろは厳しい。

【F委員】

守山のルシオールは2万7千人の来場者があった。盛り上がってくればもっと人が集まるのでは。人を集めることが目的ではないが、このエリアではこれが精いっぱいなのか。

【B委員】

草津市青少年美術展覧会に来られるお客様にそのままワークショップを楽しんでいただく動線を作っている。去年からオムロンの駐車場を借りたがいっぱいになり、会場は盛況であった。

【D委員】

前のめりになって拡大すると危険。

【B委員】

一昨年は雨で参加者が少なかったが、来場者は増えてきている。

【D委員】

会場を分散させればよいのでは。クレアホールを使えば。演奏を聴いた後に楽器を体験出来たら喜ばれる。

【事務局】

エリアにこだわっている。中心市街地の範囲。特別交付税を入れている関係もある。

【A委員】

メインは中心市街地で、サブ会場を置いても問題ないのでは。

2万人くらいを目標において。プログラムを充実させる中で次世代の体験を広げていく。

【D委員】

エキスクエアも中心市街地になるのか。若い人たちや市民の参画を考えると、アートフェスタは参加しやすいのであろう。もっと広げられるのでは。

【A委員】

これまでの議論をまとめると、一つ目は情報発信。アプリなどフランクなツール、新たな手法を考える。

二つ目は学校のプログラム、効果を得ているところもあるが、手が回らないところもある。教育委員会内の壁を感じるとの視点があった。部局間連携をすすめる新たな仕組み。プログラム開発の在り方。アートセンターを含めて強化できないか。

三つめはアートにどぼん！が開催されない中で、アートフェスタの強化ができないかというテーマ。エリアは変えられないということ。若手のアーティストを活用するなど、ここでしかできないプログラム作りを行っていく。

4. 13万人の文化プロジェクトの準備

【事務局】

<資料④に基づき説明>

【A委員】

障害のある方を対象と出来ないかという提案であった。

【D委員】

ほぼ同じプログラムで養護学校から依頼いただいている。ジャンルも同じ。せめてジャンルを変えられれば。

【E委員】

今年は、まず玉川小学校に行く。そのチームでアウトリーチが出来ればいいねという話をしていた。今年は養護学校以外の場所に行ければ。経験がないので、教えていただきながら慎重にやりたいと思っている。

【D委員】

びわ湖ホールの声楽アンサンブルは経験値が高い。新しくプログラムを開発できるかもしれない。

【C委員】

障害のある人であれば、草津市に拠点を置いている事業者とプログラムを作るところから始めればいいのか。滋賀県脊椎損傷者協会が運営されているスマイルフレンズはどうか。訪問事業を中心に行われている。前向きに取り組んでいただけるとはいいか。

自分たちがプログラムを作る場合も、当事者の方と作るのが有効であるとの実体験がある。

【A委員】

提案は現実的である。丁寧にやる必要がある。調整の段階から課題を洗い出し、マニュアル作りをやっていく。急ぐ必要はない。

【D委員】

草津中学校から依頼をいただき、特別支援学級で茶道の体験事業を行う。中学校は予算がなく困られている。県立であれば、国に補助金をもらえたりするのだが。目を向けられない

ところを対象にできないか。

【事務局】

<資料⑤に基づき説明>

【C委員】

障害と一言で言っても色々と特徴があって、配慮することも違うので、対象となる方を絞ってはいかがか。全体的にやってもどこにも届かず終わることがあるので。ロビーでやるのなら、じっと座れない知的障害や自閉症の子を対象にしては。

広報するときに、好きなところで聞いていいよ等の打ち出しができれば。島崎先生は普段から取り組まれているので、イメージがあるかとは思うが。

【A委員】

現場でどう対応するか、展示、ワークショップについても事後にしっかり検証できれば。

【E委員】

島崎先生にもせっかく来ていただくので、ロビーコンサートだけのチラシを作って広報したい。

5. 閉会
